

ゆいのき ミニ

あいさつ運動 (魅力協&児童会コラボ)

速報版 9

R2.7.10

室田和宏



いよいよ7月6日(月)からあいさつ運動がスタートしました。各地区の通学路ではまごころサポーターさん、保護者のみなさんが声掛けをしてくださっています。いつもありがとうございます。そして学校に来ると児童会主催のあいさつ運動が行われています。6年生から毎週順番に当番が挨拶で迎えます。コロナ禍の中、大声は出せないと、ポスターを手にしたり、笑顔の練習をしたり、工夫して取り組んでいます。それぞれのクラスでいろいろと話し合いをしているようで、これからの取組が楽しみです。分散登校が始まったことを思い返すと、TVのニュースでは、朝の会の「おはようございます」声を出さずに1日のスタート切っている様子が紹介されたりしていました。本校でも、この行事を計画するにあたり、意見を出し合い「大きな声で元気よく」だけが挨拶ではない。挨拶の心がけはぜひ継続し、気持ちが伝わる挨拶を子どもたちといっしょに考えてみよう」とスタートしました。6年生がうまくスタートを切ってくれました。学校の中での「こんにちは」もますます明るくなってきています！



←心肺蘇生法講習

AEDの使用方法も含めての研修でした。密を避けるために20名以内。今年は職員のみで実施しました。

子ども自転車免許事業→

4年生にて。ヘルメット忘れずに。



万が一のことはないのが一番。水の事故、交通事故への注意、ご家庭でも確認の機会を。

・・・・・・七夕かざりで願い事をながめていたら・・・・・・

「〇〇さんと仲直りできますように。」7月7日の七夕飾りの短冊にこんな願い事を見つけました。

「そうか、けんかしちゃったって聞いたなあ。もしかしたら、このことを一晩中考えていたかもしれない。この気持ちを相手に伝えることができたかな？仲直りはできたかな？」

・・・・・・ ちょっと気になって、下校の時に様子を見てました・・・・・・

「明日も仲良く遊ぼうね」「うん、また明日遊ぼうね」大きなランドセルを弾ませながら、こんな言葉を交わし、ニコニコ笑顔で帰っていく二人がいました。

心が温かくなりました。



ゆいのき ミニ

速報版 10

R2.7.15

室田和宏

「まごころ日本一」へ なかよし班活動スタート！

なかよし班の活動がスタートしました。「縦割り班での活動を通して、個々の立場を認め、協力して充実した活動へ高めていこうとする態度を養うこと。交流する中で、下級生への思いやりや上級生への尊敬の心を培うこと」をねらいとしています。13日の第1回目は、顔合わせと計画づくりでした。グラウンドでの活動に変更しての実施でしたが、6年生がうまくリードして、どの班も、とても温かい雰囲気でご自己紹介をしていました。密を避けるための集合の仕方や遊びの内容決めは、6年生とはいえ、普段とはかなり異なる難しさがあったはず。相談するときに近づきすぎないように大きめの円を地面に書いて示すなど、まさに「新しい生活様式」を生活の中で実践している様子を、子どもたちのたくましさを感じました。私が子どものころ(昭和の時代)は、近所のお兄さんやお姉さんといっしょにカンケリをしたり、三角ベースの野球をしたり。ルールが分からないうちは「〇〇はまだ小さいからあぶら虫でいいよ」などと、ローカルルールを作ってもらったりしながら、互いに折り合いをつけたくさんのことを自然に学んでいました。上級生はリーダーシップを、下級生は協力することを学ぶ良い機会にしてほしいと思います。



※あぶら虫…「捕まっても鬼にはならない」のでいっしょに活動しながらルールを覚えられる。呼び方は地方それぞれ？

グリーンサポーターの皆さんに感謝！

7月9日に本年度2回目の委員会活動がありました。緑化委員会では、グリーンサポーターの皆さんにお手伝いをいただいて、夏の草花の植え付けを行いました。毎朝の水やりもしっかり行っています。まごころこめて大切に育てていきましょう。



★ 体罰相談ダイヤル ★

7月21日(火)～22日(水)は電話相談日

本校では体罰の根絶に取り組んでいます。万一体罰や不適切な指導があったと認識されたときには、上記の期間に限らず、いつでも学校までご連絡ください。校長、副校長が随時ご相談にあたります。連絡先は以下の通りです。

城山中央小学校 652-0036 担当：副校長

ゆいのき ミニ

速報版 11

R2.7.19

室田和宏

「新しい生活様式」の定着が試される時です！

16日には東京で過去最高 286 名の感染が確認されたとの報道がありました。本県でも累計感染者は 100 名を超え、予断を許さない状況が続いています。第 2 波の到来かと危惧する報道も目にします。気持ちが少し緩んでいた自分を戒めている方もいるでしょう。あまりの感染者の急増に、不安な気持ちが高まっている方も多いでしょう。

さて、学校では・・・

6 月の学校再開から、少しずつ身に付けてきた「新しい生活様式」への転換をさらに確実なものとして身に付けるよい機会です。まずやるべきことは、これまで学校生活で学習してきたことを、主体的に生活の中で実行してく子どもたちを育てていくことです。学校では学級での指導や学校行事等を通して「新しい生活様式にあわせた生活ができるよう、発達段階に応じて理解させ、身に付けさせる」ことを繰り返し指導してきました。今、まさに再度迎えようとしているピンチに際し、2 か月間の成果を、しっかり発揮してほしいと思います。

- ① 規則正しい生活で免疫力を向上させること
- ② 朝、きちんと検温すること。（親に言われなくても）
- ③ 予備も含めて、マスクをきちんと身に付けられるようにすること
- ④ ソーシャルディスタンスを意識して生活すること
- ⑤ 登校したらまずしっかりと手を洗うこと
- ⑥ 活動の節目で、しつこいくらいに手を洗うこと。

本市でも感染者の数は増加傾向にあります。登校前には健康状態をしっかり把握し、風邪症状のある場合には、無理に登校せず、医療機関に相談しましょう。もし、本校の児童・ご家族や教職員に感染者（濃厚接触者）が出た場合は、本市のガイドラインに従い、「臨時休業の有無」や「該当者の自宅待機」等について関係機関と連絡を取り速やかに措置を講じます。保護者の皆様におかれましても、ためらうことなく、情報の提供をお願い致します。

<< クラブ活動 >>

授業時数の確保のために大幅に時数を減らしている学校もある中で、子どもたちがとても楽しみにしていること、そして、自主性や創造性を発揮する重要な活動であることから、本校ではおよそ月に 1 回のペースで実施することとしました。4 年生から 6 年生が、思い思いのクラブに属して意欲的に活動しています。

写真は学校のホームページ（城央小日記のコーナー）にもたくさん掲載しておきましたので是非ご覧ください。



ゆいのき ミニ

短い夏休みだからこそ！

速報版 12

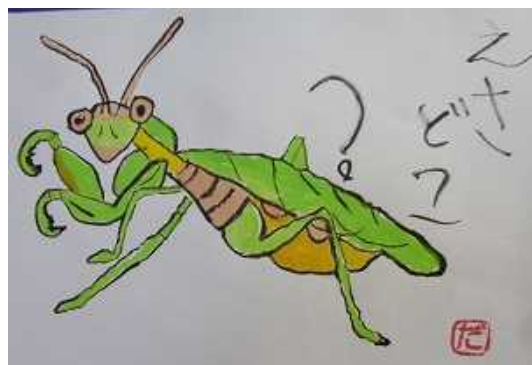
R2.7.31

室田和宏

いよいよ子どもたちが楽しみにしていた夏休みの到来です。まごころ広場ではセミの鳴き声が盛んに聞かれるようになり、ようやく本格的な夏の訪れかと、大人でもちょっぴり期待が膨らみます。

今年の夏休みは16日間。子どもたちが「自由に組みあわせる」時間や機会、活動意欲も縮減です。こんな新聞記事がありました。「子ども時代の夏休みの体験は一生の宝物だ。早朝のラジオ体操、波間から見た入道雲、大人になっても、心の原風景として残る・・・」私自身のことを振り返ると・・・早起きするのは嫌だったけれど、最終日にもらえるお菓子のために渋々ラジオ体操に行ったこと、海水浴で浮き輪に揺られて入道雲をながめていたら、いつの間にか流されて迷子センターのお世話になったこと、まさに個人的な「心の原風景」の映像がいくつも蘇りました。

今年は帰省もままならず、地域のお祭りやイベントも軒並み中止。家庭での行事も制限が多くなってしまいますが、田舎へ帰れなければ手紙を書いたり（オンライン帰省？最新の方法も）、旅行へ出かけられなければ、思い切って足元に目を向けて地域再発見ガイドブックを作ったりとか。キャンプに行けぬなら、家庭で1日調理当番をしてみるなんていうのも良いでしょう。自分で決めた取組を、何かひとつ！



学校保健・給食委員会

学校医の藤垣先生に「新型コロナウイルス感染症について」と題して講話をいただき、学校歯科医の三木先生、学校薬剤師の廣田先生にも貴重なご意見をうかがうことができました。○接触感染のウイルスの侵入口は、目鼻口。目鼻口を触る前に手を洗ってしまえば感染することはない。○飛沫感染を防ぐためにはマスクの着用とソーシャルディスタンス。○エアロゾル感染を防ぐには、密集を避けることと空気の入れ替え。○消毒は正しく。いろいろな場所で手に入るが、製造年月日やアルコール濃度などを参考に選ぶとよい。などなど。今後の対策に役立ててまいります。

栃木県の警戒度レベル 「感染拡大注意」 に引き上げられる

本県で複数のクラスターが発生していることから、7月28日から8月31日（終期は予定）の期間、警戒度レベルが引き上げられました。学校でもガイドラインに基づき、対策を講じてまいります。外出の際は施設に応じた対策取組宣言のステッカーを参考にすると、休業中の感染拡大防止の取組にご協力を。

コロナ禍 人権感覚を鋭く！

いわれなき「偏見・差別」や心ない誹謗中傷。ウイルスに打ち勝つことも大切ですが、私たち一人一人が、しっかり胸に手を当て、人権感覚を研ぎ澄ませておくことも、コロナ禍の今、大切なことです。

子どもたちには「**どんなに注意していても、感染したり、濃厚接触者の立場になったりする可能性は誰にでもある。**感染者等の気持ちに寄り添える思いやりの心を、一人一人がしっかり持とう。」と話しました。不確かな情報に踊らされることなく、正しい知識を持って、「もし自分が感染したら・・・」と、感染を自分事としてとらえることができるよう、人権感覚を磨く夏休みにしましょう。